

平成 26 年度第 3 回

函館市榎法華地域審議会会議録

(平成 26 年 12 月 4 日)

函館市榎法華支所

平成 26 年度第 3 回函館市榎法華地域審議会会議録

開催日時	平成 26 年 12 月 4 日 (木) 16 時 00 分～16 時 54 分
開催場所	函館市榎法華支所 旧議場
議 題	1 函館市榎法華地域審議会の会長および副会長の選出について 2 前回の意見等の集約結果と取組状況について 3 地域振興全般に関する意見交換 4 その他
資 料	資料 1 平成 26 年度第 2 回函館市榎法華地域審議会 意見・要望等に対する取組状況
出席委員	◎木下 恵徳 委員 ○北村 和彦 委員 岡山 弘一 委員 小野 加奈子 委員 亀沢 正史 委員 川口 英孝 委員 小市 光子 委員 越崎 賢弥 委員 五ノ井 孝司 委員 佐々木 真弓 委員 竹田 ノブ子 委員 長崎 賢一 委員 中村 麻友 委員 三島 静香 委員 (◎会長 ○副会長)  (計 14 名)
欠席委員	中村 元勝 委員  (計 1 名)
事務局出席者の職氏名	函館市榎法華支所 支所長 山田 隆嗣 地域振興課長 川口 祐二 市民福祉課長 越崎 重平 産業建設課長 平沢 浩樹 地域振興課主査 川口 勝也 地域振興課主任主事 金澤 良一 函館市教育委員会 榎法華教育事務所長 山崎 弘之  (計 7 名)
その他	傍聴者 なし  (計 0 名)

○事務局 開会にあたり、榎法華支所長から挨拶を申し上げる。

○山田支所長 委員の皆様においては、年末の大変忙しい中、集まりいただき、お礼を申し上げる。

本日の地域審議会は、新しい委員の皆様による1回目の地域審議会である。委員の皆様には、快く引き受けていただき、心から感謝を申し上げる。

また、12月1日には、恵山コミュニティセンターで合併10周年記念フォーラムを開催することができた。委員の皆様の中にも、参加いただいた方がいると思うが、この場を借りてお礼を申し上げる。

さて、当審議会の役割としては、市長の諮問に応じて、合併建設計画の執行状況などに関する事項を審議し、答申や地域振興に関する意見をいただくことなどとなっている。

私は、昨年、支所長に就任して初めての地域審議会で、地域の課題として2点のことを申し上げた。

1点目は、地震や津波、さらには土砂災害などに対応した防災対策が、当地域における重要課題であること。

2点目は、少子高齢化や人口減少に伴う地域力の低下が顕在化しており、地域を支える仕組みづくりが急務ということである。

今年度、それぞれについて、地域防災避難訓練の実施や町会再編という一つの結果を得ることができたと思っているが、当地域には、まだ多くの課題が山積みとなっている。支所としては、当地域に住む方々が、今後も安心して暮らしていただけるように委員の皆様の意見を伺いながら課題に取り組んでいくので、よろしく願います。

○事務局 次に、12月1日付けで委嘱をした函館市榎法華地域審議会委員と市職員を地域振興課長から紹介する。

○川口課長 それでは、このたび委員となった皆様を、入口側から順に紹介する。

岡山弘一委員、小野加奈子委員、亀沢正史委員、川口英孝委員、北村和彦委員、木下恵徳委員、小市光子委員、越崎賢弥委員、五ノ井孝司委員、佐々木真弓委員、竹田ノブ子委員、長崎賢一委員、中村麻友委員、三島静香委員である。

なお、本日欠席しているが、中村元勝氏が委員となっている。以上15名となっている。

次に、市職員を紹介する。

榎法華支所長 山田隆嗣、市民福祉課長 越崎重平、産業建設課長 平沢浩樹、教育事務所長 山崎弘之、地域振興課主査 川口勝也、地域振興課主任主事 金澤良一、地域振興課長 川口祐二 以上である。

○事務局 ここで、出席委員の報告をする。出席者14人、欠席者1人で、欠席は中村元勝委員である。委員の半数以上が出席しているので、地域審議会の設置に関する規程第8条第3項の規定により、会議が成立していることを報告する。

進行については、地域審議会の設置に関する規程第8条第2項の規定により、本審議会の会長が会議の議長を務めることになっているが、会長が決まるまでの間、榎法華支所長に議長をお願いしたいが、よろしいか。

(異議なしの声)

それでは、山田支所長、よろしく願います。

○山田支所長 それでは、ただ今から「平成26年度第3回函館市榎法華地域審議会」を開催する。会長が選出されるまでの間、議事の進行をするので、よろしく願います。

議題1「函館市榎法華地域審議会の会長および副会長の選出について」事務局から説明する。

○川口課長 地域審議会の会長および副会長については、地域審議会の設置に関する規程第7条の規定により、それぞれ1人を置くことになっている。選出にあたっては、委員の互選により定めることになっている。

○山田支所長 事務局から説明があったとおり、会長および副会長は委員の互選となっているが、どのような互選の方法が良いか。

○五ノ井委員 推薦でどうか。

○山田支所長 選出方法について、推薦との意見があるが、ほかに意見はないか。

(なしの声)

ほかに意見がないようなので、推薦による選出とする。推薦する方は、いるか。

○五ノ井委員 会長は、木下さんに、副会長は、北村さんをお願いしたいと思うが、どうか。

○山田支所長 ただ今、会長に木下委員、副会長に北村委員との推薦があった。ほかにないか。

(なしの声)

ほかになければ、会長に木下委員、副会長に北村委員を選出することに異議ないか。

(異議なしの声)

異議がないようなので、本件は決定された。木下会長は、議長席へ移動願う。

○事務局 ただ今、会長が選出されたので、木下会長から一言挨拶をお願いします。

○木下会長 皆様、お忙しい中、出席ご苦労様である。ちょうど10年間、5期に渡って会長を務めて、また新たに推薦をいただき、引き続き務めさせていただく。合併当時に比べると、いろいろな軋轢や問題が解消されている部分があるとはいえ、榎法華に残さなくてはならないもの、榎法華に必要なものを、皆さんの意見と知恵を借りて市へ伝え、それを実行してもらえるように、支所と協力していきたいと思う。今までの経験を活かして務めさせていただくので、よろしく願います。

○事務局 これからの進行については、地域審議会の設置に関する規程第8条第2項の規定により、会長が会議の議長を務めることになっている。

木下会長、よろしく願います。

○木下議長 議題2「前回の意見等の集約結果と取組状況について」事務局から報告願う。

○川口課長 平成26年度第2回函館市榎法華地域審議会において、委員から出された意見・要望等に対する取組状況について報告する。皆さんに配付している資料1で説明する。前回は、消防の出張所の統合に関わる意見・要望をいただいた。これに対し、当日の会議において、支所長から消防に周知徹底をしてもらいたいと考えている旨回答したが、その後の取組状況である。

消防本部にこのたびの意見・要望を伝え、出張所統合後の救急体制や対応について改めて地域住民に知らせる広報チラシを消防本部が作成し、地域内全戸に配付したところである。

○木下議長 ただ今の報告について、何か質疑等があるか。

(なし)

ないようなので、議題3「地域振興全般に関する意見交換」であるが、地域振興に関し、事務局から情報提供があるので、報告願う。

○越崎課長 榎法華高齢者福祉総合センターについて、委員の皆様には情報提供したいと思う。

当該施設については、高齢者に対して各種の福祉サービスを提供し、高齢者の福祉増進を図ることを目的として、施設内に老人デイサービスセンターおよび定員17名の生活支援ハウスの機能を配置して、指定管理者へ施設管理運営を委託し、事業を行っている。

また、当該施設利用者に対するサービスについては、指定訪問介護事業所、指定居宅介護事業所、指定通所介護事業所、これらによる介護サービスの提供を函館市社会福祉協議会榎法華支所が実施している。こうした仕組みの中で施設管理が行われており、その中でも老人デイサービスセンターについては、受託者自らが介護保険などの収入によって運営する利用料金制で行っている。

しかし、昨年末から本年8月にかけて、当地域で非常に多くの高齢者が亡くなるなど、今までにない状況が発生したことから、老人デイサービスセンターの利用者が急激に減少し、これに伴い収支が悪化し、今後においても収支の改善が見込まれない状況が予想されている。

このようなことから、施設全体の運営に影響を及ぼす恐れがあるため、市としては、当該施設については、地域の高齢者が安心して老後を過ごすため、地域になくってはならない施設であると考えていることから、平成28年度に向けて施設機能の抜本的見直しを検討しているところである。現在検討している施設機能の内容については、老人デイサービスセンターについては、利用者が少ないことから、これを見直し、地域から要望の多い、高齢者が気軽に集える高齢者のサロンのような居場所づくりを検討している。

また、生活支援ハウスについては、平成21年度以降の入所者に対して、要介護2までとしていることから、それ以上の介護度となった場合、ほかの施設等への転居を余儀なくされるため、利用者や家族などから、そのまま施設で過ごせる機能を求める声が多く寄せられていた。それらの地域の声を踏まえ、自立から要介護5まで入所可能な介護保険適用施設への転換を検討していく予定である。

○木下議長 ただ今の報告に関し、何かご意見等はあるか。

○北村委員 今、職員が足りないと聞いている。今の説明だと、間口が広がって利用者にとってはすごく使い勝手が良いと思うが、間口を広げたのは良いけれど、受け入れ体制の方で職員がいないということになれば、そこに食い違いが生じないかというのが一番心配である。

人員の確保はしっかりされているのか。

○木下議長 回答が難しければ、次回に取組状況として詳しい中身を説明願う。

ほかにあるか。

○北村委員 先日回覧板で高齢者安心相談窓口の除雪体制のチラシが配られたが、これを見てわかる人は、いないと思う。

○越崎課長 この間、地域内に配付された除排雪のサービス事業に関しては、市で行っている事業であるから、問い合わせ先は支所でも内容的なことに関しては答えられると思う。ただし、申込みについては、地域包括支援センターにお願いしたいという内容である。

○北村委員 65歳以上の老人のいる世帯が何世帯あるかわからないけれども、雪は楯法華に限らず全市域に降る。そうなった時に、除雪は、土日祝日が休みで、時間が9時から17時までであれば、事業に登録したとしても除雪が間に合わないこともあるのではないかと。先ほどのマンパワーの問題があったけれども、果たして何人体制で何組あるのか。高齢の方は、朝一番で電話をしたら、少なくとも夕方までに来ると思って電話をするはずである。雪が降って出られない、歩けないから電話をするわけで、そのときに人がいなくて除雪できないとなったら、せっかくの良い事業が、マイナスイメージになりかねないと思う。電話したけどいつ来るのという電話に忙殺される恐れがあるので、もう少し詳しい除雪スケジュールを発信してもらいたいという意見があったことだけ伝えてほしい。

こういうせっかく良い事業があるのであれば、連合町内会も、社会福祉協議会とコラボレーションできないのかというのが、地域に住んでいる私の感想である。

○越崎課長 楯法華地域に関しては、社会福祉協議会の下部機関の地域包括支援センターにまず申込みをする。そしてそちらが窓口になって全ての指示を社会福祉協議会の楯法華支所に連絡を入れて、社会福祉協議会の支所職員が除雪するという仕組みになっているが、介護保険事業などを行っている兼ね合いもあり、すぐに除雪できないという実態もある。

○木下議長 ただ今の除雪の件については、社会福祉協議会とより良い形ができるように、できるだけ期待に添えるように交渉していただきたいと思う。

ほかにないか。

○北村委員 前回の審議会で、北海道新聞の報道について質問をして、そのとき越崎課長から返答をいただいた。今度は函館新聞に載ったものであるが、9月の津波対応の訓練は、行政の主催で良いか。

○川口課長 9月に行った地域防災訓練については、支所主催のものである。

○北村委員 新聞報道で見ると、楯法華町会が主催したというニュアンスで書いているけれども、北海道新聞から始まって、函館新聞と、この地域においてどういう流れで誰がコメントしたかわからないけれども、事実に基づいた報道であるならば良いが、誰が主催しているかどうかは、正確に記載するべきである。

○木下議長 報道機関といえども、間違いは間違いである。9月の訓練は、支所が主催した防災訓練である。それは、支所から報道機関にきちんと申し入れしなければならないと思う。

地区町会連合会長が来ているけれども、町内会の主催ではなかったということで良いか。

○川口委員 主催ではないが、会員へ参加を促す話は会議の中でして、さらにもう少し詳しく説明してほしいということで、旧元村、旧富浦、旧新八幡町、旧浜一の4つの旧町内会で説明した。

○木下議長 今しているのは、9月の訓練について、支所の主催で間違いはないかという確認であるが、いかがか。

○川口委員 支所の主催である。町会としては、会員に参加を促しただけであるが、この訓練は、共催では駄目か。

○川口課長 共催で駄目ということはない。ただ、私どもとしてお願いしたいところは、これまでも町会側に話したことがあるけれども、地域全体の部分では支所が主催するが、各町会においても自主的な訓練を企画して行っていただきたいということである。

○木下議長 支所が訓練を行うときに各町内会が協力することを共催にできないかということなので、検討の余地があれば、次回に取組状況として報告いただきたい。  
ほかにないか。

○北村委員 ホテル恵風の上期の売り上げ等について、わかっている範囲で教えてもらいたい。

○平沢課長 ホテル恵風の上半期の数字ということで、報告をする。

まず、利用人数であるが、宿泊者については、9,032人で、残念ながら前年比398人の減となっている。温泉利用については、27,000人ほどで、これについては、1,500人ほど利用者が増えている状況にあり、この温泉利用者が増えていることもあって、利用人数については、去年より200人ほど多い42,061人となっている。

売り上げについては、1億3千3百万円で、総利益については、前年比480万円ほど減となっているが、一般管理費等の節減が500万円ほどあり、純利益については、去年より70万円ほど多いという結果になっている。これが上半期の数字であるが、売り上げについて10月と11月の速報値は、ともに昨年より上回っている。あとは、12月と1, 2, 3月であるから、今後も売り上げ増になるように対策を講じたいと思っている。

○北村委員 いつも指摘しているように、ホテル恵風は上期と下期の構成比が6：4である。それで対前年も下がっている。色々な人件費等を引くとプラスになっている。今、平沢課長が話したようにまさしく1月から3月までが一番勝負だと思う。

昨日、北海道新聞の夕刊にひろめ荘の広告記事が出ていて、結構インパクトがあった。まさしく企画力と営業力だと思うので、今まで行ってこなかったのであれば、これからやることを全てプラスに結びつく方向で推進していただいて、何とか対前年をクリアして、従業員の下げた給料を上げる方向に持って行っていただければと思うので、よろしく願います。

○木下議長 ほかにないか。

○川口委員 審議会も11年目を迎えるけれども、12月1日の合併10周年記念フォーラムで、北海学園大学の学生が、地域の調査結果を発表し、その中で審議会についてのまとめもあった。「審議会を知っていますか。」という質問に対して、5割くらいが知らないということである。

それから、より良い地域への課題ということで、地域審議会の認知度の低さや審議が形式的との指摘、住民に根強い行政任せの考え方があってはならないかという意見、審議会を見直して、もっと住民の声を行政に反映できるような場に変えるという意見があったとして報告があった。我々は、一生懸命だと思うが、一般の方の見方は、こういうことなので、次回の討議のテーマとして審議会がどうあるべきかということを一つ入れていただければ良いと思う。

○木下議長 ただ今の意見について、どうあるべきかとは、どういうことを指しているのか。

○川口委員 何かアイデアが出てきたら良いのではないかという意味である。

○木下議長 今日配付している資料の中に地域審議会の設置についてというものがある。①合併建

設計画の変更に関する事、②合併建設計画の執行状況に関する事、③当該地域においてのみ行われる事務・事業に関する事、④その他対象地域の振興に関する事項について、地域審議会において審議あるいは市に対する答申をすることが役割である。この範疇であれば、色々なアイデアを取り入れることは可能だと思うが、これを逸脱するものについては、できないということになる。

○川口委員 逸脱するという言葉ではなく、前進する、進化するという言葉で・・・

○木下議長 常識の範囲で考えていただきたい。

○川口委員 常識の範囲で考えているが、そういう調査結果が出たことから、ステップアップするために少し角度を変えることが必要ではないか。

○木下議長 地域審議会の認知度が低いことについて、市のホームページについては、各家庭で見られないことがあるのでともかくとして、榎法華では、地域審議会だよりを出している。これに中身もきちんと書いていて、それでアピールが足りないということであれば、一軒一軒回って、これを見てくださいというアピールの仕方になってくると思うが、さらにどういったアピールの仕方があるかも考えながら、より良い地域審議会になるように皆さんと協力していきたいと思う。

○川口委員 審議が形式的との指摘に対しては、決められた事項の中でずっと審議されているからという解釈をしているのであるが、いかがか。

○木下議長 今までも活発な意見が取り交わされてきたのではないか。

○川口委員 私もそう思うけれども。

○木下議長 ほかの地域で形式的かどうかは、わからないが、ほかの地域のことは一切ノータッチである。

○川口委員 そうだろうか。

○木下議長 当該地域だけの地域審議会であるから。

○川口委員 10年経ったら少しは変えても良いのではないか。

○北村委員 変えるのであれば具体像を出していただきたい。私は審議会の全部の議事録を見ている。前回、戸井でも出ていた。若者を委員にすべきだとか、審議会に入る前に事前にワーキングチームで討論会が必要ではないかとか、具体的なものを提案している。ワーキングチームを作るなら作るで良いけれども、こうして集まって、意見を述べているわけであるから、その流れで良いのではないか。何か不都合はあるか。

地域で何か問題があったら、皆さんが発言すれば良いのであって、私は審議会とはそうだと思う。奇をてらったような形のものではなくて、疑問があるものについて各委員さんが発言する。それについてすぐ答えられることは、この場で聞いて、できないことについては、次回に譲ったり、個別の委員に個別の答えを出したり、そういう流れで良いのではないか。



ただ、地域の存亡を揺るがすようなことがあれば、事前に招集して、より煮詰めた形でやるのも結構であるが、私は、今の流れで良いと思っている一人である。

○山田支所長 審議会の今後のあり方であるけれども、審議会の中で審議すべき内容については、規程の中で整理されているものであるから、これが基本になる。川口委員の要望については、例えば、この審議会とは別に、これまでもテーマを決めて何回か勉強会を開いているので、それも一つのやり方であると思う。地域の方々が審議会自体をわかりづらい、何を行っているかわからないという部分については、地域審議会だよりもあるので、その中で周知をしっかりとさせていただきたいと思う。地域審議会は、この場で無理矢理に議論すべきことを絞っているのではないと思っているので、活発な議論というのは、当然していただいて良いと思っているが、状況によっては、その中の色々な具体の個別な部分については、例えば勉強会を使ってだとか、そういうやり方が良いのではないかと思っている。

○川口委員 戸井の審議会は、全員が話すような流れで進行している。2年間審議会に出たけれども、いつもだいたい話をする人が決まっている。皆さんそれぞれの年代だとか立場で来ているので、その立場の中で、地域に関することを発言できるような流れになっていけば良いのではないか。

○北村委員 今もその流れになっている。意見があれば言えば良い。15人全員が話すようにというのは、強制するということか。

○川口委員 強制するというわけではない。

○木下議長 話せる人もいるし、話せない人もいる。話せない人は、私はこんなことを考えているからと隣の人でも誰にでも頼んで言ってもらっても良い。

発言しなくても出席して、その内容を聞いて、こんな大事なことがあったと地域の人に話してくれることも大事である。地域審議会の委員が、必ず話さなければいけないから地域審議会に行くのが嫌だというようにはならないようにしないといけないと思う。会長としては、全員に無理に話してもらうことは想定していない。個々に意見があれば、個々が責任を持って発言して良い。そのときに間違いがあれば、みんなで勉強して、協力して、色々な意見交換をしていければ良いと思う。話し合いたいことがあれば、具体的に提案してもらって、それを吟味したり、勉強会でそれを取り上げたりすることも可能だと思う。

○北村委員 さっきも言ったが、川口委員が提案したいことがあるのであれば、具体的に討議したいことを出させていただきたい。ほかの地域でこうしているのではなくて、楳法華地域審議会はずっとこういうやり方をしてきた。

○小市委員 認知度が低いとあったが、今回の地域審議会についても、地域の皆さんは、結構知っている人は知っている。地域審議会を頼りにしている方もいることもわかってほしいと思う。

○木下議長 地域審議会は楳法華では、結構皆さん認知している。全員ではないけれど、審議会が開かれていることも知っている。であるから、楳法華に関しては、PR不足とか何とかということは、あまり考える必要はなく、今までどおり粛々と行っていくことが必要だと思うので、これからも協力をお願いします。

ほかにないか。

○亀沢委員 以前にこの委員をやったときに、子ども審議会の提案をして、その後、日程が取れなくて開催できないということは聞いたが、それ以降何かあるか。

○木下議長 私から答弁して良いか。当時の教育事務所もいないし、当時の課長も替わっている。結局、学校側がその時間を割いて、授業時間に地域審議会に来る時間がないということで、無理という結論に至った。

○亀沢委員 学校側が無理ということであれば、しょうがない。

○木下議長 ただ、校長も替わっているし、機会があったら、教育事務所長から校長に提案していただきたい。

○山崎所長 子ども審議会の件であるけれども、平成21年に亀沢委員から意見があったが、その時点で次年度の学校のカリキュラムについては、もう確定しているので、次の次ということで動くという会議録が残っていたことは、承知をしている。その後、実施をしたかどうかというのは、私は追っていないけれども、未だに行われていないのであれば、それが諸々の事情でできなかったのかどうなのか、状況について調べさせていただいて、できるものであれば、行う方向で動きたいと考えている。

○木下議長 よろしく願います。ほかにないか。

(なし)

それでは本日の議題は、各委員の協力の下、全て終了した。

次回の開催時期は、3月を予定している。議題内容については、「前回の意見等の集約結果と取組状況について」、「平成27年度地域別事業計画について」、「地域振興全般に関する意見交換」を考えているが、日程も含め、正副会長に一任願いたいと思うが、よろしいか。

(はいの声)

以上をもって、平成26年度第3回函館市榎法華地域審議会を閉会する。

午後4時54分終了